

## 令和2年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和2年3月1日（月）16：30～17：40

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	吉村 恭子
（事務局）企画部長	島倉 弘行
企画部次長	小尾 千智
企画課長	澤田 篤
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	松本 亮大
（教育部）教育部長	千田 義彦
教育部次長	村井 安之
学校指導室長	椿野 次雄
企画総務課長	浅野 浩司
学校教育課長	高橋 裕輔
生涯学習課長	小野寺 康広
学校指導課長	大西 智彦
企画総務課総務係長	阿部 健

▼内 容

○島倉企画部長

ただいまから、令和2年度第2回千歳市総合教育会議を開催致します。

本来であれば、11月中旬頃に第2回会議を開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により一旦開催を延期し、本日の開催に至っております。委員の皆様には、日程の変更につきましてご迷惑をおかけいたしました。

それでははじめに、山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

皆さん、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

今回は今年度2回目の会議となりますが、今年度は言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症の対応に追われて過ぎ去った一年でした。子供たちはこの現状をどのように受け止めているのかはわかりませんが、休校や学級閉鎖のほか、家族や周囲の方が陽性となって休まざるを得ないなど、学校に通えない期間が長く続きました。

子供たちにとっては、卒業、入試、入学という人生でも大きな節目を迎える時期であります。子供たちの気持ちを優先させてあげられない現状に、私も大変つらい思いを感じています。ワクチンの接種も開始しましたので、この現状が一日でも早く収束し、心身ともに健全な状況に戻ることを願っています。

本日の会議では、懸案の事項についてご議論をいただきますが、教育委員の皆様には、子供たちの環境に心をお寄せいただき、温かく見守っていただくとともに、ご助言をいただければありがたいと思います。よろしくお願い致します。

○島倉企画部長

ありがとうございます。

(佐々木教育長 挙手)

佐々木教育長、お願いいたします。

○佐々木教育長

議題にはなっておりませんが、市長からもお話がありましたので、コロナ禍における学校の様子についてお話させていただきます。

前回の会議以降の状況についてですが、学校においては4、5月が休校となり、6月からのスタートとなりました。休校期間中の授業日数が不足することから、夏休み期間中に授業を実施するなどして対応しました。一部の学校では、冬休みにも1、2日授業を実施しております。学校生活においては、新しい生活様式に対応するための様々な対策を実施しております。教員の負担軽減では、学習指導員などを配置し、消毒をはじめとした様々な作業のサポートを行っているほか、消毒用アルコールなど必要な物品を整備するため、配当予算を追加しています。

また、様々な行事やイベントが中止や延期となっておりますが、卒業式については参加者を限定した上での開催となります。本来であれば、教育委員の皆様には学校の卒業式にご出席いただいているところですが、今年度についても、来賓なしでの開催を予定しております。

学校における感染の状況ですが、本市の小中学校においても、昨年から数件の感染が確認されております。ただし、ほぼ全員が家族からの感染であり、その後PCR検査を実施していますが、学校内における感染はありませんでした。学校において感染対策を徹底していることや、家族が発症してすぐに休ませるなどの対応により、影響を最小限にすることができたと考えています。

簡単ではありますが、以上になります。

○島倉企画部長

ありがとうございます。

この後の進行につきましては、千歳市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が議長を務めることとなっておりますことから、山口市長をお願いいたします。

○山口市長

それでは、早速議題に入りたいと思います。本日は、「千歳市教育振興基本計画」と「全国学力・学習状況調査から見る新しい学びのあり方」を議題といたします。はじめに、

千歳市教育振興基本計画について、説明をお願いします。

○浅野企画総務課長

それでは、議題の1番目であります「千歳市教育振興基本計画」についてご説明いたします。本計画につきましては、今後予定しております「千歳市教育大綱」の改定にも関連することから、その内容についてご説明させていただくものであります。

(「千歳市教育振興基本計画」について説明。)

○山口市長

ただいま事務局から概要について説明がありました。このことについて意見交換をしたいと思います。ご発言のある方はお願い致します。

○佐々木教育長職務代理者

資料によると、体系として7つの大きな基本目標が掲げられていますが、基本目標1「社会で生きる力を育む教育の推進」の、施策項目1「認め合い、高め合う学年・学級経営の充実」について、これがまさに、子供たちを取り巻く環境づくりの中で非常に大事なことだと私も理解しています。先生と子供たちの信頼関係や、子供たち同士のより良い人間関係を構築することによって、子供たち自身が周りから認められる親和的な学級に所属しているという意識が持てると思います。このことが学習意欲の高まりにもつながり、いま問題となっている学力低下の解決につながっていくのではないかと思うので、力を入れて取り組んでもらいたいと思います。

○橋場委員

今のご意見に関連するのですが、次のページの施策項目の2番に「確かな学力の育成」とありますが、授業改善を進めるにしても、ICTを活用した学習を進めるにしても、安定した学習環境が整っていなければ、こういった取組が「学力の向上」には結びつかないと思いますので、親和的な学級・学習集団を目指した取組は、しっかりと進めていただきたいと思います。

○山口市長

ICT機器の整備についてはここ数年続けてきておりますが、中学校については来年度で整備が完了する予定でしたか。

○佐々木教育長

令和3年度中に、中学校については一人一台の整備を完了する予定です。また、小中学校ともに、ICTに関する専門知識を持った方を配置しています。

○吉村委員

30ページ、施策の3つ目の「特別支援教育の充実」についてですが、以前の教育委員会会議で、特別支援教育を進めるにあたって、対象児童生徒数が増加していることなどを踏まえて、これまでの特別支援教育の基本方針を改定したと思います。特別支援教育につい

では、毎年改定が行われていると思いますが、今後は、具体的にどのように進めていくのでしょうか。

○山口市長

現状はどうなっていますか。

○高橋学校教育課長

特別支援教育の方針につきましては、本市ではこれまでブロック制という方式をとっており、北進小中学校をセンター校として、特別支援学級を集約する方向で進めてきました。元々、10人程度の小集団が学び合いの規模として丁度良いということもあり、この方針をとってきましたが、近年は子供たちの数が増加傾向にあり、学校によっては30人程度の場合もあることや、近所の子供と同じ学校に通わせたいという保護者のニーズが高まってきていることもあり、今回、方針の見直しを行い、原則として全校に配置をしていくこととしました。

ただし、空き教室や対象となる児童・生徒数の状況にもよることから、すぐに全校配置とはなりません。令和3年度の予定としては、小学校に新たに5校、中学校では東千歳中学校に配置を予定しています。

また、北陽小学校など児童数の多い学校では開設が難しいことから、スクールバスの運行などについては引き続き実施していきます。

○吉村委員

特別支援学校とは違うので、学校ごとの運営方針もあると思いますから、分からないことがあれば、教育委員会主導で研修会を開催するなど、より良い指導ができるようにしていただきたいと思います。

○荒井委員

新しい計画は、学校教育と生涯学習のそれぞれの計画を一本にしたというところが特徴だと思います。その中でも、資料2の79ページには、連携する視点の2番目として「家庭の教育力向上」とあり、主な取組に、PTA連合会との連携で進めている「千歳市家庭生活宣言」のほか、学校・市教委が行っている様々な家庭への情報発信に加えて、子育てサポーターの育成など、地域で家庭教育を支える様々な取組があげられています。

改めて、これからは学校・家庭・地域がこれまで以上に一体となって取り組んでいく必要があると感じています。昨年からは新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事等が中止となり、親同士や先生との交流が難しい状況が続いていますが、何か良い案を出しながら進めていけたら良いなと思います。

○山口市長

家庭生活宣言については、非常に重要な取組であるということで以前から議論しておりますが、進捗状況についてはどうですか。

○高橋学校教育課長

簡単には進まないというところはありますが、学力向上における家庭学習の重要性は各

学校でも認識しており、家庭への働きかけを続けています。今後もPTA連合会と連携して、保護者の意識を高めるような取組を行っていきたいと考えています。

#### ○佐々木教育長

新しい計画についてですが、先ほど議会において、教育行政方針についてお話させていただきましたが、学校における教育と、地域における生涯学習について、それぞれ別の計画だったものを一つにして、学校から見た地域、地域から見た学校という様々な視点で取り組んでいくことが大切だと考えています。

次の議題でも触れますが、家庭の中で子供たちがどう過ごすかについて、学校から能動的に働きかけることは難しい部分もあるのですが、グランドデザインの中で、家庭への働きかけを積極的に取り入れている学校は多くありますので、学校だけではなく、地域や家庭が連携していくことが必要であると考えています。家庭生活宣言は、平成26年から始めて6年程度経過していますが、より強力に働きかけていく必要があります。

今年度は新型コロナの影響により連携がなかなか難しい状況でした。令和3年度は新しい計画のもとで、関係者と意見交換をさせていただきながら、取り組んでいきたいと考えています。

#### ○山口市長

今後、コロナ禍が収束に向かうにあたり、大人の社会では働き方改革が進められていきますが、子供たちにもリモート学習などの取組が求められることが考えられ、その環境をどう整備するかという課題も出てくると思います。その実現のためには、色々な方の意見を聞き、実態を把握していくことが必要だと思います。この度は、貴重なご意見をありがとうございました。

それでは次の議題に移ります。「全国学力・学習状況調査から見る新しい学びのあり方」について、説明をお願いします。

#### ○大西学校指導課長

それでは、資料に基づいて説明いたします。

(「全国学力・学習状況調査から見る新しい学びのあり方」について説明。)

#### ○山口市長

このことについて、ご意見はありますか。

#### ○佐々木教育長職務代理者

全国学力・学習状況調査の問題は今までも目にはしていたものの、じっくり説明を受けたのは初めてでした。問題を実際に見て、問題文のボリュームも多く、すぐ難しく感じました。単にグラフを書くことができる、とか、計算ができる、というだけでなく、その知識や技能を使って、必要な情報を読み取ったり、解答を導く過程を説明したりするような力が求められていることがわかりました。今回は数学の問題を見せてもらいましたが、国語の問題ではどのような特徴がありますか。

○大西学校指導課長

今回の問題では、新しい学習指導要領が示している「児童・生徒に見つけさせる資質・能力」を育むためにはどんな授業が求められているのかを分かりやすく示していて、かつ、本市において正答率が低く無答率が高い問題を1問紹介させていただいたところです。小問は(1)と(2)の2つしかありませんが、ご覧いただいた通り、かなりの分量を読み解かなければならないものとなっています。

国語においては4問となっていますが、かなりの分量があり、じっくり読んで問題に向かうという解き方では時間が足りませんので、ざっと読んで大意をつかむという力が求められています。その上で、内容を捉えて書き手の考えを理解することや、条件に従って書くこと、自分の考えが相手に伝わるように書くなどの力が求められていると分析しています。

○佐々木教育長職務代理者

本を読むことがこれまで以上に重要になりますね。

○橋場委員

我々の時代とは違い、スピード感と読解力が求められていると感じました。数学の問題でも読むだけで大変だと感じますが、これがいま求められている力なのだと理解しました。

実際の学校での授業や「新しい学び方」はどのように変化していますか。また、教育委員会として、「新しい学びのあり方」について、各学校に具体的にどのような働きかけをしていますか。

○大西学校指導課長

新しい学びのあり方について、国が示している内容についてはおおむねご理解いただけたかと思いますが、身につけるべき知識や技能は特に変わりません。身につけたものをどう活用して課題を解決するか、思考力、判断力、表現力を駆使して、自ら進んで解決しようとするような学びを、学校として計画的に準備する必要があると考えています。新しい教科書も、「主体的対話的で深い学び」が展開できるような問いや構成がなされています。

各校においては、単元の指導計画を立案する段階で、新たな学び方を模索しながら実践に取り組んでいるところです。指導室としても、学校訪問で授業視察や資料提供を行っているほか、学力向上検討委員会や学習課題検討委員会など、様々な場面で新しい学習指導要領が示す新たな学びについて指導していきたいと考えています。

○椿野学校指導室長

今の話を若干補足いたしますが、これまでの説明をお聞きになって、まるでこれからの教育がまるっきり変わってしまうように感じられたかもしれませんが、学習指導要領や文科省からのメッセージにもあるように、今まで各学校で培ってきた指導や授業の方法をベースにしながら、工夫改善していくものになります。これまで通り、読む、書く、聞くという基本はしっかりと身につけさせていく必要があります。

○吉村委員

資料の6ページ、7ページに家庭生活習慣についてのグラフがありますが、児童生徒の

テレビの時間やスマートフォンの使用時間がこれまでと変わらず長い状況が見られ、家庭学習の時間を確保する上での課題となっていると感じます。

○大西学校指導課長

平日の家庭における時間は限られており、帰宅してから就寝するまで5、6時間位だと思いますが、その中でテレビやゲーム、スマートフォンの時間が長くなれば、当然学習時間が短くなります。学習時間でいえば、中学校の学習時間に若干の改善がみられたことは一つの成果かと思います。家庭生活宣言が少しずつ浸透してきているのかなと思います。

望ましい生活学習習慣への改善は、今年度の重点取組として各学校に指示しているところですので、家庭生活習慣の改善を呼びかけるとともに、情報モラルに関する指導や、事故防止の取組を併せて行っています。

○山口市長

特に、最後の情報モラル等の取組は重要ですね。

○吉村委員

悪い大人に誘われて行ってしまうような話も聞きます。

○山口市長

スマートフォンは本当に便利ですが、一方でそういった問題もあります。家庭や学校で指導が必要と感じます。スマートフォンに関して、重大な不適切事案などはあるのですか。

○大西学校指導課長

現在のところ、大きな問題は報告されていませんが、学校によってははじめにつながりかねない嫌がらせなど、トラブルは日々起こっています。

○佐々木教育長職務代理者

コロナ禍において、各家庭でのスマートフォンの使用状況に変化はあったのでしょうか。

○大西学校指導課長

今のところ詳細なデータはありませんが、来年度の全国学力・学習状況調査において、小学校5年生と中学校2年生に、同じような設問が設けられると思いますので、その結果を見ながら分析する必要はあると思います。

○荒井委員

学校が休みの間、子供に留守番をさせる機会も多くあったことから、連絡手段としてスマートフォンを買い与えた家庭も多かったと思います。最近は学習アプリなども充実していますので、勉強道具として持たせるケースもあると思いますが、一方で依存してしまうリスクもあると思います。

特に低学年では、視力低下なども問題もありますし、自分でコントロールするのが難しいので、使用時間などの約束がないというのは問題だと思います。

○山口市長

世の中の流れとして、スマートフォンの使用については、止められるものではないと思います。今は様々な課題がありますが、自ら気を付けるべきところを理解し、ルール化していくのではないかと思います。

○荒井委員

今は電子書籍や電子マンガなど、店に行く必要もなく、より安く手に入ったりするようですね。

○山口市長

スマートフォン自体は良いものですから、良い使い方ができるように指導していきましょう。

○椿野学校指導室長

資料の7ページで、1日に3時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する子供の割合と、約束がない子供の割合がほぼ一致しており、約束がない家庭では3時間以上使っているのではないかと思います。また、中学校3年生では4人に1人は、約束がないと答えていることに驚きました。

数年前から携帯電話等を使う際の約束や、保護者向けの研修会を道が実施していましたが、今年度は新型コロナの影響で実施できていないと思いますので、確認したいと思いません。

○山口市長

スマートフォンについては、全員が持っているわけではありませんし、学校から指導するというのも難しいとは思いますが、やがてはスマートフォンの使い方についても、教育の一環として指導しなければいけなくなるのかもしれないし、各学校でルールを決めていくことが必要になるかもしれません。

ほかに何かございますか。

○佐々木教育長

本年度の全国学力・学習状況調査は中止されましたが、本市では、児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育施策の成果の検証や課題の改善を目的に、提供された問題冊子を教育課程内で実施し、感染症対策で大変忙しい状況の中でしたが、自校で採点していただき、そのデータを市教委に提供してもらいました。集約した結果は、分析して各学校に資料提供して、自校の学力向上策に役立ててもらっているところです。

いま、スマートフォンの話がありましたが、児童一人一人にパソコンを与えようとしている中で、整備が完了した暁には、これを家庭に持ち帰って使うということになります。このことも含めてルールを作り、有効に活用していかなければなりません。

○佐々木教育長職務代理者

一人一台パソコンがいきわたったら、紙の教科書はなくなるのでしょうか。



○佐々木教育長

指導者用のパソコンには電子教科書が入っていますが、児童生徒用のパソコンに入れるかどうかは議論の余地があります。新聞の記事によると、紙の教科書と電子媒体の教科書を使った集団を比較した時に、紙の教科書を使った集団の方が、学力が向上したというデータもあるようです。単純に、パソコンにすべて入れてしまえば良いという話ではないかもしれません。

○山口市長

まだまだ議論はあろうかと思いますが、議題についてはここまでとさせていただきます。その他として、事務局から何かありますか。

○澤田企画課長

企画部から1点ご報告させていただきます。通学路等安全対策実施状況の資料をご覧ください。今年度建設部において整備した、ガードパイプなどの画像を抜粋して掲載しております。

令和元年度の調査により、通学路及び集団移動経路において、41か所に対応が必要と判断し、対策を進めてきました。このうち、本日時点で22か所の対応が完了しており、今年度末までに39か所の対応を完了する予定です。残る2か所についても、来年度中の完了を予定しております。

○島倉企画部長

ありがとうございました。今年度の総合教育会議は今回を持ちまして終了となります。来年度の会議につきましては、第1回会議を5月頃、第2回会議を11月頃に開催する予定です。この他、緊急的に開催が必要な場合につきましては、随時開催致しますのでよろしくお願い致します。

以上を持ちまして、令和2年度第2回千歳市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

○山口市長

ありがとうございました。